

忘れていませんか？仲間への感謝

岐阜市立梅林中学校 3年

西川 華衣

みなさん、突然ですが、自分の周りに誰一人いない、孤独な場면을想像してみてください。話し合ったり笑い合ったりする人、一緒にご飯を食べる人などがいない、つまりどんなときも一人であるということです。そう考えると、そんな状況はすごく心細くないですか。でも、今の私たちには家族がいて、学校にはクラスメイトや部活動のメンバー、先生方、さらに地域の人など身近で一緒に生活している仲間がたくさん存在します。このような環境をどのように捉えていますか。当たり前のように感じてしまっていないか。

「頑張れ！」

「ラストー、いける！いける！」

校庭に飛び交う駅伝部の声援です。駅伝部の練習は、とても厳しく、苦しく、立ち止まりたくなる瞬間がたくさんあります。でも、そんな中でこんな活気のある声を掛けてもらえた時、誰もが嬉しくなったり力をもらえたりするはずです。私もそうでした。

私の中学校の駅伝部のみんなは、自分が練習で走り終わった直後、疲れているときでもすぐに切り替え、仲間の応援をしています。仲のいい子だけでなく、男女・学年の壁を越えてもどの仲間のことも名前を呼んで応援していました。さらに、最後の一人が走り終わるまで止まることなく応援続けていました。このように仲間を本気で思いやる気持ちにあふれているおかげで、「頑張れ」といったたったこれだけの短い言葉でも思いが届いてきました。そんな声援は走っている私の背中を押してくれ、どんなに苦しいときでも笑顔にさせてくれました。しかし、まだこのときの私はこのような環境での練習を当たり前だと思っていました。

私は、部活動とは別に自主練習として一人で走ることがよくあります。そうやって一人で練習する前は気分が落ち込み、とても憂鬱になります。時には、練習から逃げたいと強く思うこともあります。それは、一人というのが、応援してくれる人がいない。一緒に成長し合える人がいない。ということだからです。しかし、練習が楽しみなときもあります。それはチームで練習するときです。部活動では、仲間がいる。それは応援してくれる存在がいるということです。仲間がいれば、一緒に高め合うことができます。目標を達成したときに喜びを分かち合うことができます。一人ではできなくても仲間がいることでできるようになることはたくさんあります。なので、このように共に頑張れる仲間がいることは、当たり前なことじゃない、とても素敵なことだと感じました。そしてそのとき、駅伝部の練習を乗り越えてこられたのは自分の根性だけでなく、全力で応援してくれていた仲間のおかげでもあったのだと気付かされました。駅伝部解散式、「このメンバーで練習することはもうないんだ」「これからはまた一人で走らなきゃいけないんだ」という思いで胸が苦しくなりました。素敵な仲間との別れがとても寂しく、涙をこらえることができませんでした。そのくらい私にとって駅伝部の部員というのは大きな存在でした。

私はこのことをきっかけに仲間という存在の大切さを初めて実感することができました。みなさんも実感したことはありますか。あなたの周りにも、ぶつかり合ってしまう家族や他愛もない会話をする友達、登校中にすれ違う地域の方がいると思います。そんなふだん何気なく一緒にいてくれる仲間が、ふとした時に助け、支えてくれるかけがえのない存在であることを忘れず、感謝の気持ちを大切にしていってほしいと思います。私もそんな仲間感謝の気持ちを持ち、自分自身もそんな仲間の力になれるような存在になりたいです。